

わたしのおいしいお米

東松島市立矢本西小学校3年 おいかわ みどり

わたしたちは、毎日お米をおいしくいただいています。

でも、そのお米があるのはのうかの人たちがくろうして田んぼのかんりをして、あいじょうをこめてそだててくれたお米だからおいしいと感じるのだと思います。わたしの家の前には田んぼが広がっています。のうかの人たちはトラクターで作ぎょうをしたり、夏のあつい日でも草をかったりして、わたしたちのためにがんばってくれています。

そして、えいようしさんたちが、どうしたらおいしくバランスのよいきゅう食になるのかを考えてこんだてを立て、作ってくれている事によって、さらにおいしいと感じるのだと思います。わたしのすきなきゅう食は白いごはんとさばのみそにの組合わせとドライカレーです。

外国には、食べたくても食べられないまずしい子どもたちがいるとテレビで見ました。だから、毎日、お米を食べられるだけで幸せだと思います。

去年、お母さんが入いんしたのでつやま町にすむおばあちゃんにお米のたき方を教わりました。お米も生きているからやさしくしずかに水を入れてあらう事。たきあがったら十字にへらで入れておくとおいしい事。そのとおりにたいてみると、ふっくらできあがり、

「みどりのたいたごはんは今まで食べたごはんの中で一番おいしいよ。」と家ぞくみんなに言われました。

そのお米を、今年は一才になった弟も一しょに食べています。わたしが弟のお口にごはんを入れるとにこにこわらうのでうれしいです。だから今も、家ぞくのえがおが見たいからごはんをたき続けています。その毎日が一日でも多く続くといいなと思っています。